

2004年2月19日

分科会委員各位

分科会会長 杉岡直人

分科会のまとめについて（経緯と提案）

これまでの経緯において、第4回の分科会では2つのまとめ案が提出されることになっています。その詳細は別紙のコラムメモを参照して下さい。問題は、分科会としてどのような報告をおこなうか、自由な討論によって、お互いが（市民サイドに立つ委員として）市民に対して説明責任を果たせるように努力し適切なものをまとめていくことにあります。会長としては、協議を通じて一本化することを皆さんに協力いただきたいと思いますので、事前に2つの案を比較検討し、自由に発言いただけることをお願いしたいと思います。会長としてメンバーの方に賛同を押しつける意図はありません。あくまで、これまでの各委員の貴重なアイデアを生かす仕組みを報告としてまとめていくという立場をとっています。したがって両案をミックスするようなことができれば望ましいと思います。

図解（杉岡提出資料 分科会の議論のまとめ）の説明

基本は、市民と行政の協働によって新しい公共のあり方を作り出すという視点に立つということです。したがって、市民は、計画・事業の具体化・事業の評価の一連のプロセスにかかわりできるだけ市民生活と札幌市の将来のあり方にひきつけて共生・地域づくりを考えることが基本となります。

ここで、これまで共生について話題が相当程度出されましたので、現代社会福祉辞典（有斐閣2003）より辞典的解説を紹介しておきます。

共生：「もともとは、生物学における用語に由来しているが、現在、その使用は広範囲に及んでいる。ここで、人間界に注目すると、共生とは、第一に、異質なもの、多様なものが、それぞれの差異にもかかわらず、共に在り、生き、第二に、他者を受容し、ときには葛藤し、ときには協働することを意味する。具体例としては、男と女、高齢者その他の世代、障害者と健常者、外国人と自国民の共生、さらに、組織と個人の共生、自然界との共生などがある」

共生社会：「もともとは、生物学における用語に由来しているが、現在、その使用は広範囲に及んでいる。ここで、人間界に注目すると、共生とは、第一に、異質なもの、多様なものが、それぞれの差異にもかかわらず、共に在り、生き、第二に、他者を受容し、ときには葛藤し、ときには協働することを意味する。具体例としては、男と女、高齢者その他の世代、障害者と健常者、外国人と自国民の共生、さらに、組織と個人の共生、自然界との共生などがある」

付け加えるなら、近年は多文化共生主義（multiculturalism）という表現が一般化しつつあり、先住民族の権利を尊重する、あるいは労働力の国際的移動にともなう自国における異文化社会を受け入れる（例えば、英語圏以外の出身者に同国人のヘルパーを派遣する英国などの取り組み）という意味で多用されています。日本国内では、在日朝鮮人の人権やアイヌの人々の人権などについて取り上げられるようになってきていることが、こうした問題提起に関わっているといえます。

図解（杉岡提出資料 分科会の議論のまとめ）にもどって、市民と行政の協働という新たな枠組みが今後の重要な柱になっていきますが、共生・地域づくりの課題に対応して具体的な取り組みを

住民交流・活動の拠点づくり

身近な情報提供・相談機能の充実

さまざまな活動や主体をつなぐ仕組みづくり

連携と総合化によるケア機能の強化

という4つの柱にまとめ、これまでの具体的提案の趣旨を生かしてまとめました。

右側の取り組みに必要な視点としたのは、市民と行政の協働という前提に立って、私たちの具体的な提案とそれに続くような内容の提案をサポートする仕組みを考えるには、明確な取り組みに対する視点が必要となります。そこで、ある意味で協働のルール（原則）というべき視点を取り組みに対応するように設定しました。その意味では、（具体的取組みとの関係は）具体的取組みを生み出す入れ物のような関係になっています。

以上の図解をもちいて今後、分かりやすい文章化を考え、個別的・具体的意見提案を資料として添付することで、分科会の報告となるものと考えます。

まだキーワード的に不十分なところもあると思いますので、自由にご指摘いただけますと幸いです。

共生・地域づくり分科会のまとめについて（提案）

分科会会長 杉岡直人

1. アウトプットについて

市役所の素案への意見と 分科会としての提言が最終的に分科会の討議成果として提出されることとなっています。

市役所の素案への意見 = 昨日前半に話し合った内容をもとに作成することになりました。

～ 会長提案～

伊藤副会長にお手数をおかけすることは、申し訳ないので事務局で整理をしてそれをメンバーで確認する手続きとすることを提案します。

理由は、伊藤副会長が指摘されているように市の素案の大半は、整理されており、大幅な変更を加えるような意見を展開するようなものではないことがあげられます。ここはむしろ、メンバーの意見を事務局が整理して点検することで大きな瑕疵が生ずるものとはならないと考えられるからです。

分科会としての報告

伊藤副会長の提案の内容をもとに話しあったものと、これまでの分科会で具体的なアイデアと問題提起にあふれるメンバーのオリジナルな実践や意見・提案をつまびらかに紹介することで提言の骨子とすることになりました。

昨日の分科会では、両論併記で二種類のペーパー（ア 伊藤副会長提案をもとにしたもの イ 全体会議中間報告資料をもとにしたもの）をもって全体会議へ提出・報告してはどうかという考え方もありましたが、あくまで分科会としては、いずれもメンバーの責任で発言し報告としてまとめることになったので、二種類の異なる内容のものを報告とするのではなく、統合的に位置づけ報告とする方が、行政へのインパクトも想定でき、他の分科会メンバーや今後の市民への議事内容の情報公開の際にも適切と考えられます。

～ 会長提案～

この件についても伊藤提案を修正することを伊藤副会長にお願いし、もう一方のこれまでの具体的なメンバーの意見を事務局でまとめて、最終的に、それをセットにする手順をとることは、あとで調整の時間が相当に負荷がかかり、また、昨日の分科会での事務局説明によると、最終的に、他の分科会における議論を踏まえたうえで、一定部分は分科会共通の枠組みに沿った整理が求められることも予想されることから、分科会としては、事務局のたたき台を受けて委員による修正をしていく方が効率的と考えます。

～（次ページに続く）～

～（前ページから続き）

2 伊藤副会長提案資料について

委員の意見を整理してまとめられていることは議論の展開上、極めて有効でしたが、

- ・札幌市素案への具体的な現状の問題に指摘がしぼられていること
- ・現状 提言までを一貫させるように組み立てられているために、提言の部分がメンバーの多様な意見を吸収しにくくなっており、無理にメンバーの提言（全体会議中間報告資料）を組み込むことは、伊藤副会長提案をあいまいにしたり分かりにくくさせてしまうことから、事務局に整理してもらったものをメンバーで修正していくことで一本化を図ることが適切であると考えます。

2004.2.6

共生・地域づくり分科会委員 各位

2月4日に「会長提案（これまでの議論を事務局によって整理したたたき台を受けて委員による修正を加える）」として皆さんにご案内いたしましたところ早速回答いただき厚くお礼申し上げます。

結果的に賛・否が分かれており、やむをえず事務局提案の形はとらずに、会長試案として資料を用意することとしました。内容的には、あくまでこれまでのメンバーの意見を会長として取りまとめるという考えでおこなうものですが、分科会でのまとめとして適切かどうかを取捨選択して整理致します。

伊藤副会長からは、予定通り自身でまとめて提示したいという意向が示されておりますので、メンバーの皆さんからの提案をお寄せいただければ幸いです。

次回分科会での協議のなかで最終的なとりまとめのイメージと整理の方向を考えていきたいと思っております。

分科会会長 杉岡 直人